



# 園だより

.....17. 7月号

## 「平和」な朝があること

6月から愛隣幼稚園に仲間が増えました。「あいりんひろば」にやってくる仲間たちです。これまでの「つぼみ」に加えて、0歳から

の子どもたちとそのお家の方たちも、幼稚園で共に過ごす仲間になりました。私たちに地域の子育て家庭も支援できることはないだろうかと考えて始めたことです。子育てが始まって、最も孤立感が強くなり、どこにも助けがないと悩む時に1週間に1回でも、子どもも大人も安心して楽しく過ごせる時間があったら、少しは子育ても面白いと思ってもらえるでしょうか？まだまだ小さな一歩ですが、在園のお家の皆様にも応援してもらえたら心強く思います。

それにしても子育て初心者あの頃は、私だって全てが初めてでしたから、毎日とにかく必死で無我夢中で、時間にも気持ちにも余裕などありませんでした。サザン大好きな私がファンクラブの更新も忘れ、リリースされた曲さえ知らずに過ごしていました。音楽大好きな私が、音楽を聞かずに暮らしていたなど、どれだけ余裕がなかったのかと驚きます。社会から隔離されたような時間でした。しかしそれは社会が私を隔離したのではなく、私が私を社会から隔離したということでもあったのだと、今になって気付きます。目の前のことだけで精一杯、自分のことだって後回しですから、世の中がどうかなんて、それどころじゃない日々だったのです。

で、突然ですが、子育て真最中の皆様、「平和」なんていうことを、今、考えたりすることはありますか？私の心にはいつもどこかにあることで、やはり8月6日、9日、15日が近付いてくると、あらためて「平和」ということを考えてしまいます。あの日、戦争が終わって良かった、今、こうして皆が安心して暮らせる国であることは本当に幸せなことだ、と心から思います。そしてこの「平和」が子どもたちの未来まで永久に続くようにと祈っています。それはきっと私の子ども時代に起因しています。1960年代、私の親や祖父母にとって戦争はまだつい最近の出来事でした。6歳まで一緒に暮らした祖父からはその時も、また大きくなってからもたびたび戦争の話を書きました。父からも母からも戦争の話を書きました。学校の宿題にも父母から疎開の話などを聞いてくるようにという課題が、毎年のように出されていたように思います。戦場に行かなくても、戦争でどれくらい大人も子どもも辛く悲しい経験をしたかということ、身近な家族が幼い私たちに伝え、今日「平和」な朝があることを考える機会がたくさんありました。それは本当に大切なことでした。日本に「平和」な日々が戻って72年の時が過ぎ、さて、私たちは子どもたちにどれくらい「平和」ということについて話をしていくのでしょうか。戦争が引き起こす悲しみ、苦しみ、憎しみなどについて話す機会があるのでしょうか。戦争を知らず「平和」な日々を送ってきた私たちには、それが当たり前になり、今日が「平和」であることに鈍感になってしまいました。自由も権利も保障され、個人が尊重され、幸せに生きることの権利も奪かされることはない、そんな今日はこれからも続くと、心のどこかで信じています。本当にそうでしょうか？私たちの国が72年もの間「平和」であったのは、私たちの先達の強い決意と深い祈りがあったからこそではないかと思えます。戦争への後悔、二度と過ちは繰り返さないという思い、自分達と同じ苦しみを子や孫が経験することがあってはならないという願いから、その経験を伝え「平和」を守る努力を続けてきてくれたのです。（日本国憲法の前文を是非、読んでいただきたい。）沢知恵（さわ ともえ）というシンガーソングライターが若い頃、おじいちゃんに聞きました。“どうしてこの国は戦争をしたの？おじいちゃんほどの人がどうして戦争をとめられなかったの？”おじいちゃんの答えは“ここまでなら大丈夫と だまって見ているうちに、気付いたら、なにひとつ自由にものを言えなくなっていた”でした。先達の大きな後悔でした。

話を戻しましょう。子育てに全力で向かっている私たちは、ある期間、社会との接点を失ってしまったかのように思うことがあります。それどころではないからです。しかし、決して自ら目を閉じ耳を塞ぎ口をつぐむことがないように私は願っています。大事なこの子らの未来を守るのも私たちの仕事ですから、『気付いたら。』

なんてことにならないために。そして私たちの言葉で「平和」を語り継いでいきたいと思います。